



『Shining ほいく』は研修の振り返りと実践への活用を目指し発行する機関紙です。研修受講後に保育の質の向上に向け学んだ内容を実践に繋げていく中で『shining ほいく』を活用していただけましたら幸いです。

～「Shining ほいく」お役立ちポイント～

- ① 「この間の研修どんな研修だった？」と話すときに『参考になる。』
- ② 他園で研修をどのように活用しているか知りたい時に『ためになる。』
- ③ 保育を見直したい時になるほど！と『気づきがある。』

公立保育園で行っているUD スクールの様子をご紹介します

「UD」とは、「ユニバーサルデザイン」の略です。

ユニバーサルデザインとは

年齢、性別、国籍、個人の能力にかかわらず、一人ひとりの多様性が尊重され、あらゆる場面で社会参加ができる環境を整えることです。

板橋区は、「板橋区ユニバーサルデザイン推進計画 2025」を平成 29 年 3 月に策定しました。

「もてなしの心を大切に、すべての人が心地よさを描けるまち いたばし」をめざし、誰もが自分らしく暮らせるまちづくりをしています。『板橋区ユニバーサルデザイン推進計画 2025』より

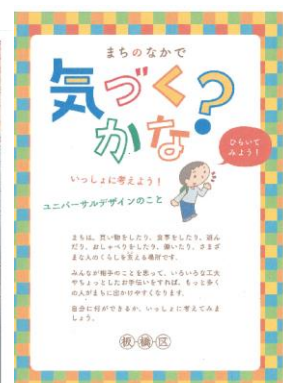
公立保育園では、『保育所保育指針』 第2章保育内容 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容「イ 人間関係」に基づき、UD スクールを実施しています。

【UD スクール実施の目的】

児童に対し、幼児期から自分を含め、世の中には様々な人たちがいることを知ること、多様な人の困りごとや解決方法を発見することの体験により、想像力や思いやりの気持ちを育み、多様性について興味、関心を高める。

保育園でのUD スクールでは、ユニバーサルデザイン啓発パンフレット「まちなかで気づくかな？」を活用し、子どもたちが身の回りにいる人や場所に目を向けて友だちと一緒に気づいたり、考えたり、新たに知る機会を作っています。

「まちなかで気づくかな？」はイラストの中から困っている人を探して、どんな配慮や手助けができるのかを考え、UD を子どもから大人まで気軽に楽しく学ぶことができます。



(板橋区ホームページからダウンロードできます。)

UD（ユニバーサルデザイン）スクールを実施して

①若木保育園

3日間に分けて、4・5歳児クラスでUDスクールを行いました。

1日目…保育園や街のUDの工夫探し（5歳児）



5歳児が“きりん組探偵”になり、保育園や街中のUDの写真を見て謎探し。「なんで階段の手すりが2つあるのかな？」と子どもたちが謎を発見。「これなら小さい子が使いやすいね」と工夫に気が付いた子がいました。

きりん組探偵は保育士が驚くほど多くのUDの工夫を見つけっていました！

2日目…身近なUD探し、アイマスク・ベビーカー体験（4・5歳児）

子どもたちが「困っている人」を体験しました。
巧技台で階段とスロープを作り、ベビーカーを押して歩くと「（ベビーカーは）重くて階段は大変。スロープの方が通りやすい。」
また、アイマスクをつけて歩いてみると、「目が見えなくて怖い…」
赤ちゃんのいる人や目の見えない人の気持ちを考える機会になりました。



3日目…保護者向けのポスター作り（5歳児）

1日目の園内探検で見つけたものの写真を使って、保護者向けのポスターを作りました。「文字も書きたい！」と説明文も子どもたちが書きました。子ども目線の“身近なUD”ポスターが完成しました。

実施してみても…

5歳児は自分たちで考えながら進めていけるように、4歳児は保育士がヒントを出しながら、それぞれの年齢に合った方法で実施できたことや、子どもたちの身近な物を題材にしたことで、「知ってる」と興味をもって活動に参加する姿が多く見られました。

「（UDのものは）使いやすいね」「困っている人がいたらおうちの人に言って手伝ってもらおう」と、UDに興味をもち、周囲の人へ思いやりの気持ちをもつ機会となりました。

② 高島平けやき保育園

けやき保育園では4、5歳児クラスの子どもたちにUDをわかりやすく伝えるために、オリジナル紙芝居で知らせ、その後「UD散歩」でUD探しをしました。

UD紙芝居（15分程×5日間）

《紙芝居の内容》

1日目：UDって何？

身近なUD（シャンプーボトルの刻みや牛乳パックの切り込み）

2日目：色々なマークについて

（車いすマーク、ヘルプマーク、盲導犬マーク等）

3日目：スロープや点字ブロックについて

4日目：だれでもトイレやおもいやり駐車場について

5日目：パンフレット「気づくかな？」を使って困っている人探し



↑オリジナル紙芝居の一部です。



←「気づくかな？」を見て、グループ毎に「困っている人探し」をしました。

UD散歩（保育園～赤塚公園）



←いつも通る横断歩道で「盲人のための国際シンボルマーク」を見つけました。

子どもたちは「困っている人を見つけたら、ここに付れてきてあげればいいよね。」と話していました。

公園まで向かう途中、スロープや点字ブロック、色々なマークを探しました。また、赤塚公園サービスセンターの方に公園内の誰でもトイレや救護室等を紹介してもらいました。



UDスクールとUD散歩の様子は写真付きの掲示をする事で、保護者の方にもUDを知ってもらえるように工夫しました。UDスクールを終えた後、子どもたちから「おかあさんとUDを探しながら帰ったよ。」「ヘルプマークをつけている人が困っていたから、お父さんと手伝ってあげたよ。」という声が聞かれました。今後もけやき保育園では、子どもたちが身近に感じられるUDスクールをおこなっていきたいと思います。



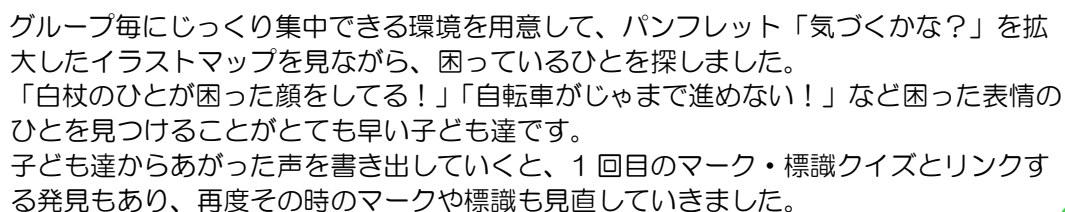
新河岸保育園では、4・5歳クラスで混合のグループを作り、
全3回のスケジュールでUDスクールの活動に取り組みました。



また、ヘルプマークや男性女性を示すアイコンマークなどを用意して「これはなにかな？」とクイズ形式でその意味を知らせることも行っていました。



第2回目



第3回目

見つけたときには「UD 発見!」と声をあげるゲームのようにすることで子ども達の意欲も高まりました。

「このマークは〇〇のひとを助けるためだよね！」など、子ども同士でおしえあう姿も見られました。



各回を通し、子どもたちにはわかりやすい言葉を使って

UD とは、“いろいろなひとが幸せになること・やさしくすることである”と伝えて活動しました。また、保護者へも UD スクールの内容を写真掲示やお便りにして配信することで園での UD 活動を共有できるようにしました。

UD スクール以降も、散歩の折に「あ！〇〇マークだ！」と気づくことが多くなり、子ども達の中で UD への興味や関心の高まりを感じています。

これからも今回のUD スクールを折に触れ保育のなかで振り返り、再確認していきながら子ども達のこころのなかにUD デザインを根付かせていきたいと思っています。